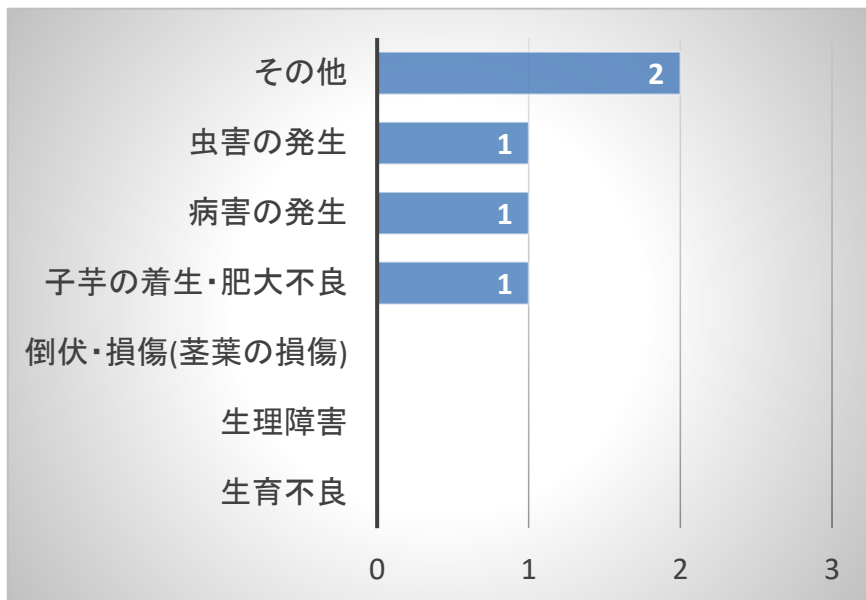


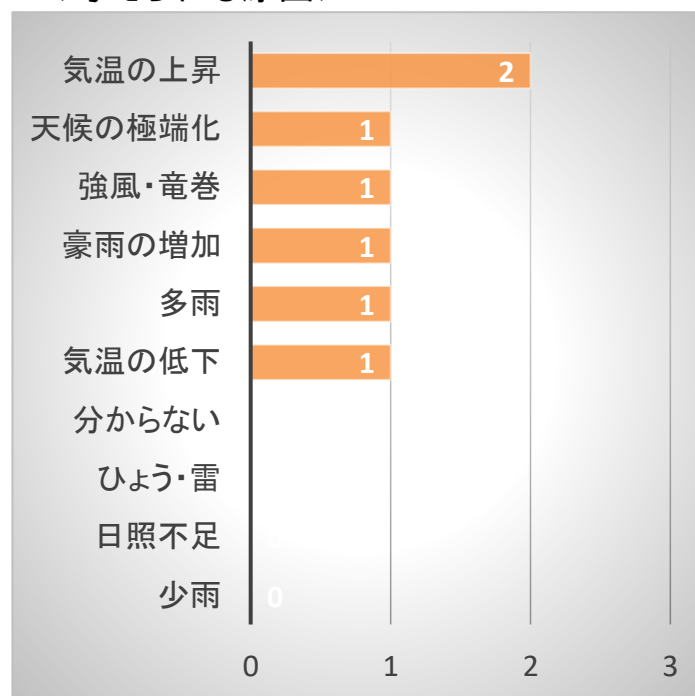
# (農協)アンケート及びヒアリング調査結果:「ばれいしょ」

## <日常感じる影響>



「その他」の内容: 秋から冬にかけての干ばつ

## <考えられる原因>



## <ヒアリングから得られた情報>

### 【干ばつの詳細について】

#### ・時期と状況

天候不順により10月以降の雨量が少なく、春作の種植時に土壌中の水分量が不足している。

#### ・暖冬後の遅霜多発について

天候が極端化しているを感じる(20年前とは違う)。

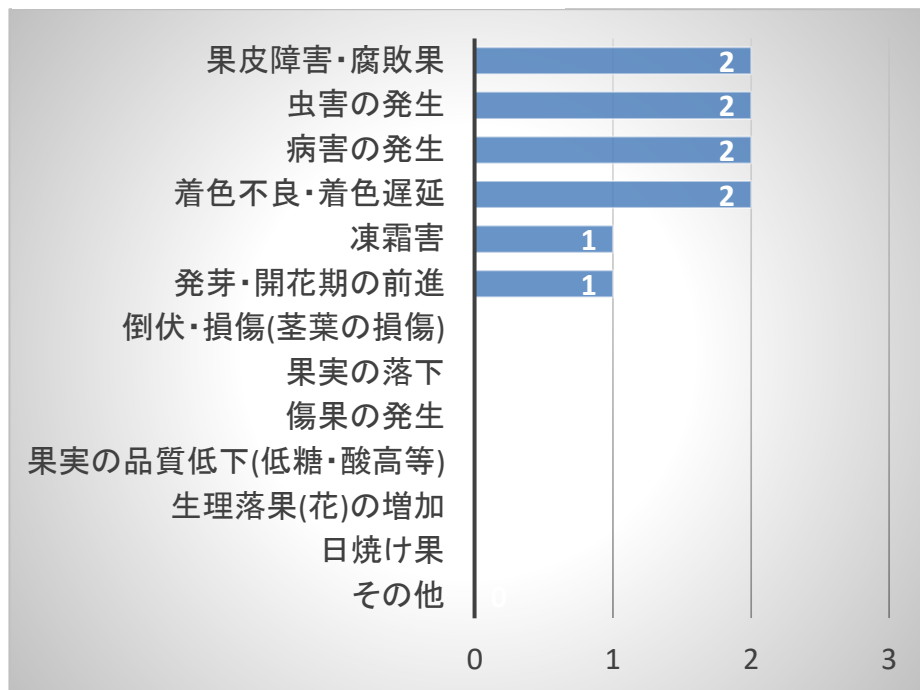
長崎県では、これまで寒波の際に雪が積もるのは夜間で、日中は溶けてしまうことが常であった。また、雪が降ってもマルチ内が適度に乾燥していれば、雪の下は零下には至らないため、被害はあまり発生していなかった。しかし、先日の寒波では日中から急激に気温が下がり積雪した。寒波の前に雨が降っていたこともあり、土中の水分が凍って被害が出ている。

#### ・降雨の集中について

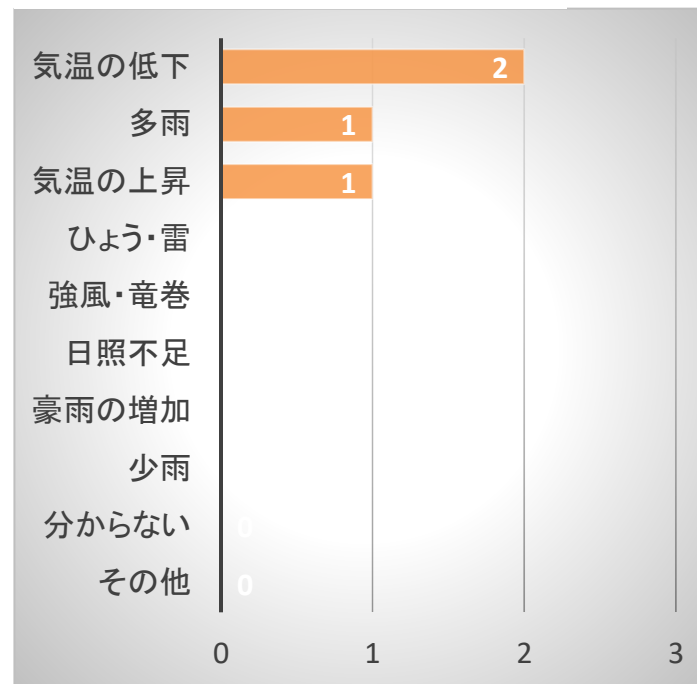
天候が大きく「雨期」と「乾期」になりつつあるように感じる。近年、8月中旬から9月にかけて大雨や台風の被害が発生しているが、一方で10月以降は干ばつとなり、従来、灌水が必要なかった地区においても灌水が必要となってきた。

# (農協)アンケート及びヒアリング調査結果:「ビワ」

## <日常感じる影響>



## <考えられる原因>



## <ヒアリングから得られた情報>

### 【凍霜害の詳細について】

#### ・時期と状況

開花時期が11月頃、その後受粉し1月頃には小指大の実がなる。1月から2月において-4℃以下で2時間以上継続すると種が凍死する。

#### ・原因

気象の極端化。この10年で3回(3年)冬の寒波による被害が生じている。

#### ・被害状況

今年も先日の寒波による被害で長崎市におけるビワの被害は76%に及んだ。

#### ・実際に行っている対策について

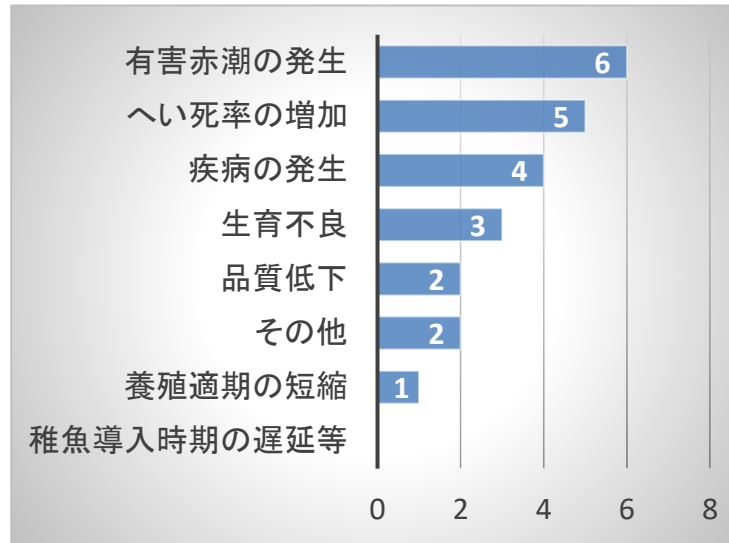
アンケートにある通り、ハウス栽培への誘導を行っている。しかし、資材価格が高騰しており、ハウス栽培への移行は経済的にとても難しい。

# (漁協)アンケート調査結果:海面養殖「魚類」

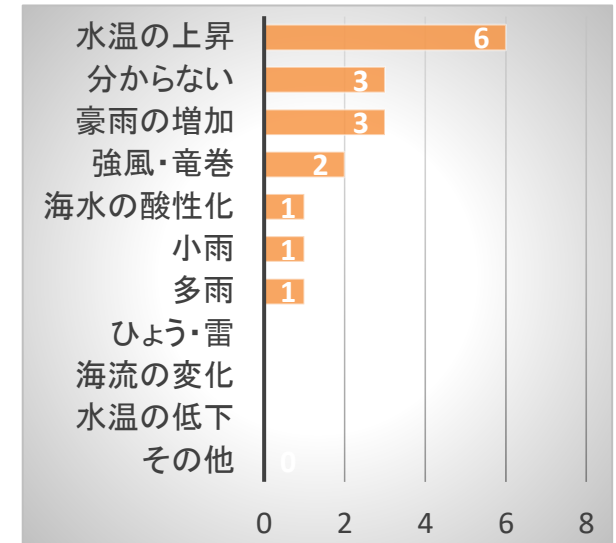
## <魚種>

- ・タイ、マダイ
- ・クロマグロ
- ・ブリ、ハマチ
- ・トラフグ
- ・ヒラマサ

## <日常感じる影響>



## <考えられる原因>



## <実施している対策>



## <対策の課題>

- ・金がかかる
- ・許可がとれない
- ・効果が薄い
- ・漁場環境整備

## <今後の影響(予測)>

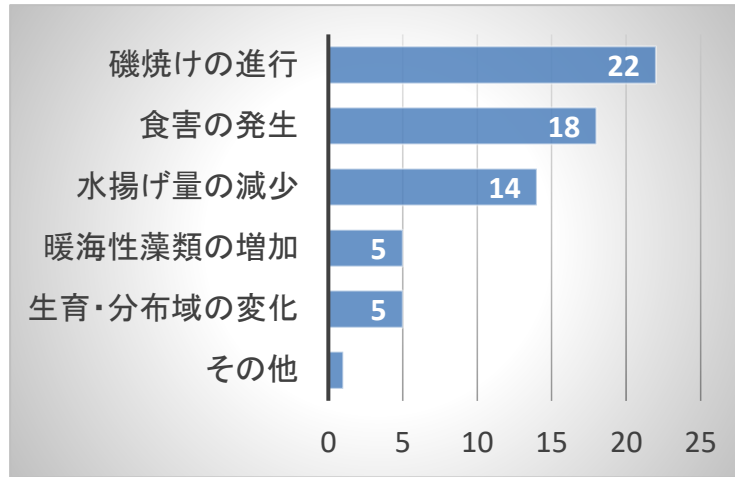
- ・ひどくなるようであれば事業をやめざるをえない
- ・高水温によるへい死、新たな魚病発生。トラフグシーズンの短縮
- ・高水温による疾病、大型台風によりいけすの破損

# (漁協)アンケート調査結果:「藻場の状況」

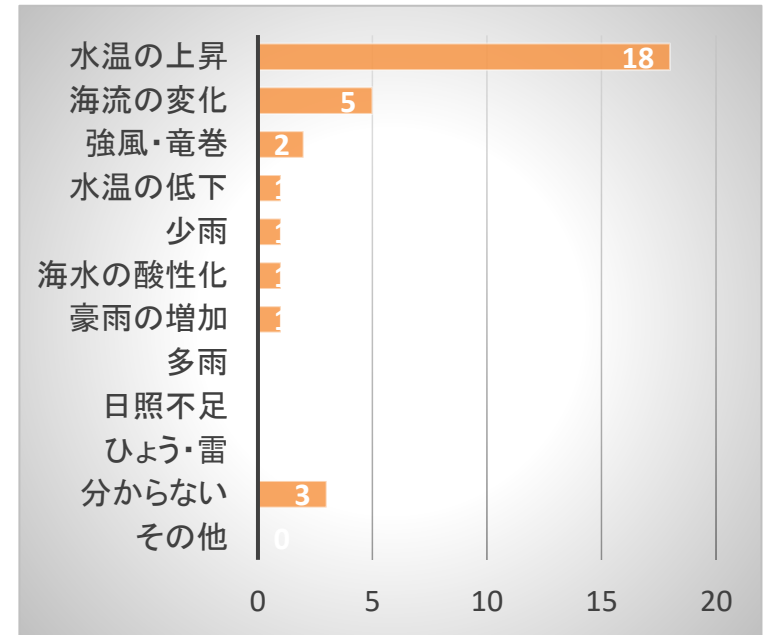
## <回答数>

23団体

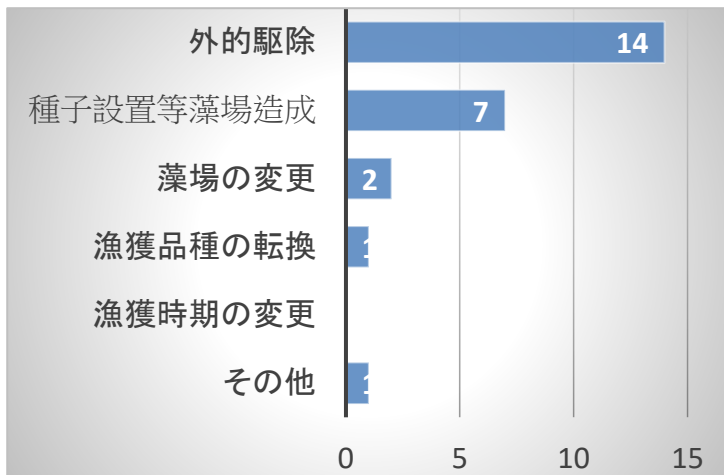
## <日常感じる影響>



## <考えられる原因>



## <実施している対策>



## <対策の課題>

- ・藻場保全事業による藻場の造成
- ・母藻成育がうまくいかないこと 隠れる魚、稚種・卵を産みつけるイカが取れなくなる
- ・植食性魚類、生物の増加及び駆除。ウニ駆除については、駆除を強化すればするほど翌年は子供が増えるのでイタチごっこ。植食性魚種に対する対抗策の少なさ、及び有効的な対策が見つかっていないこと
- ・なかなか回復につながらない。

## <今後の影響(予測)>

- ・磯焼けの進行、藻場の衰退
- ・海面上昇による高潮、高波等
- ・南方系の海藻が増え、ウニ等の良いエサとなるクロメ、カジメの繁茂群の消滅